

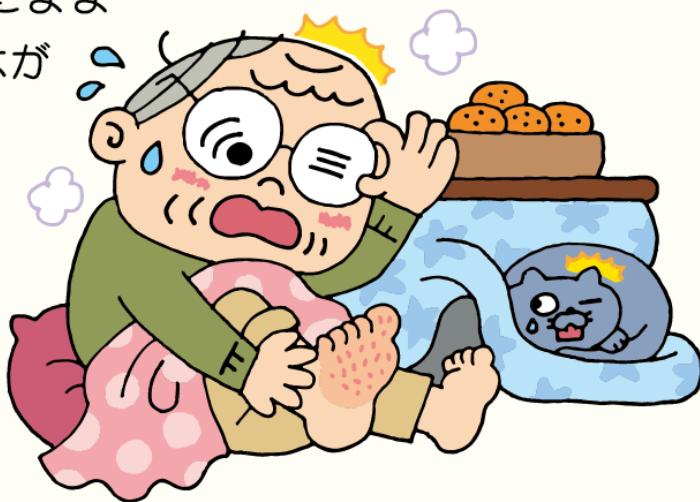
## 見守り 新鮮情報

**事例1** こたつで就寝し朝起きると、足の指から出血しており、やけどに気づいた。左足の親指と人差し指を切断し、中指は皮膚移植を行うほどの重症だった。

(70歳代 男性)

**事例2** 腰にカイロを貼り、電気毛布のスイッチを付けたまま就寝した。翌朝カイロをはがすと「痛がゆさ」があったので、皮膚科を受診したところ、皮がむけており皮膚の深い部分までやけどをしていると言われた。

(70歳代 女性)



# 低温やけどにご用心 見た目より重症の場合も

## ひとこと助言



気をつけてね

見守るくん

- カイロやこたつ、電気毛布など、暖かく感じる程度の温度でも、長時間皮膚が接することによって「低温やけど」が起きます。高齢者は若年者に比べて皮膚が薄く、運動機能や感覚機能が低下しているため、重症となりやすく、特に注意が必要です。
- 低温やけどを防ぐためには、長時間同じ部位を温めないことが重要です。
- 低温やけどは痛みも少なく、一見軽そうに見えますが、見た目より重症の場合があります。早めに医療機関を受診しましょう。

本文イラスト：黒崎 玄

見守り新鮮情報 第241号 (2016年1月8日) 発行：独立行政法人国民生活センター

お気軽にご相談ください！

八代市消費生活センター 電話：33-4162

(八代市役所 1階市民相談室内)